

2020年度短期学術会議支援事業成果報告

2021年2月26日

GRIPS 政策研究院・篠田

1. 事業名

現代東南アジア政策研究ネットワーク（PRN-SEA）シンポジウム

2. 事業代表者名

篠田 邦彦

3. 採択期間

2日間（2021年2月）

4. 2020年度予算

1,700,000 円

5. 事業完了報告書

(1)各回の報告書

①当初の事業計画

GRIPS では、過去のプロジェクトを通じ蓄積してきた、大学、研究機関、シンクタンク、国際機関との協力関係を踏まえ、1) 東南アジアが直面する諸課題に対応する政策研究のネットワークを構築すること、2) 各国が共通して関心のあるテーマにつき共同で政策研究を行い、必要に応じて関係国政府に対し問題提起・政策提言を行うことを目的として、現代東南アジア政策研究ネットワーク（PRN-SEA）事業を実施。

2021年2月に東京で、GRIPS、インドネシア CSIS、シンガポール RSIS の共催の下、2日間にわたる PRN-SEA シンポジウムを開催し、現代東南アジア政策研究ネットワークを構成する日本や東南アジアの大学・研究機関、共同研究に参加する研究者、ASEAN 対話国の研究機関の米、中、インド、豪州の有識者が一堂に会し、1)インド太平洋地域が直面する課題について、大局的な見地から議論し、今後のネットワーク事業の方向性（新たな研究テーマ、参加組織等）を定めるとともに、2)5つの研究クラスター（※）の成果発表のとりまとめを行う予定であった。

（※）「東南アジアにおける大国間競争と海洋秩序」

「東南アジアにおける国家と過激主義」

「東南アジアにおける持続的経済成長」

（外国直接投資とグローバル・ヴァリュー・チェーン（GVC）の役割が中心）

「開発協力パートナーシップ」

「環境問題」

上記シンポジウムを開催する際に、米国、豪州、インド、中国から招聘する4人の研究者のフライト代、宿泊費、謝金、日当を短期学術会議支援事業で支出することを計画。

②事業の実施状況

2020年初めより拡大したコロナ禍が収束せず、海外からの渡航者に厳しい入国制限がかかり、大型イベントの開催も困難となったため、2021年2月に東京で対面方式のPRN-SEA シンポジウムを開催することを断念し、その代わりに2021年3月に以下の4つの研究クラスターの成果報告をオンラインのウェビナー方式で行うことを決定。

「大国関係と海洋秩序」(シンガポール RSIS 主催)	3月 9日 (火)
「過激主義と国家の対応」(インドネシア CSIS 主催)	3月17日 (水)
「持続的経済成長」(GRIPS 主催)	3月29日 (月) / 30日 (火)
「開発協力パートナーシップ」(JICA 研究所主催)	3月25日 (木)

(2)事業総括

上記のとおり、2021年2月に東京において対面方式で行う予定だったPRN-SEA シンポジウムの開催を中止し、3月にオンライン方式のウェビナーで個別の研究クラスターの成果報告を行うこととなったため、米国、豪州、インド、中国から4人の研究者を招聘する必要がなくなった。よって短期学術会議支援事業の予算執行は行わないこととする。